CANAL WALK Course

尼ロック コース　約3.7km

Access

バス「阪神センタープール」↔「JR立花」「阪急塚口」
バス「尼崎テクノランド前」↔「阪神出屋敷」
バス「阪神出屋敷」↔「JR立花」「JR尼崎」「阪急塚口」「阪急武庫之荘」

阪神尼崎センタープール前駅→道意神社→元浜緑地→祇園橋緑地→であい橋→北堀運河→北堀キャナルベース→水質浄化施設→中堀運河→南堀運河→尼ロック

蓬川 コース　約3.8km

Access

バス「阪神センタープール」↔「JR立花」「阪急塚口」
バス「阪神出屋敷」↔「JR立花」「JR尼崎」「阪急塚口」「阪急武庫之荘」

阪神尼崎センタープール前駅→道意神社→元浜緑地→祇園橋緑地→であい橋→北堀運河→北堀キャナルベース→水質浄化施設→尼崎港管理事務所→蓬川緑地→阪神出屋敷駅

尼崎の森 コース　約3.5km

Access

バス「阪神センタープール」↔「JR立花」「阪急塚口」
バス「尼崎スポーツの森」↔「阪神出屋敷」

阪神尼崎センタープール前駅→道意神社→元浜緑地→祇園橋緑地→であい橋→北堀運河→中堀運河→八幡橋→尼崎の森中央緑地→尼崎スポーツの森

東堀 コース　約4km

Access

バス「阪神尼崎」↔「JR立花」「JR尼崎」「阪急塚口」「阪急武庫之荘」
バス「阪神大物」↔「JR尼崎」

阪神尼崎駅→中央公園パークセンター→桜井神社→旧尼崎警察署→文化財収蔵庫→東堀運河→東部浄化センター→松島ポンプ場→ユニチカ記念館→大物川緑地→阪神大物駅

尼崎市 Amagasaki City

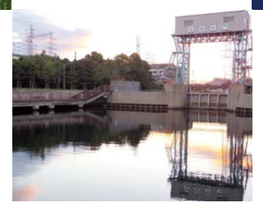
尼崎市公式ホームページ「尼崎運河とは」
http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/tosi_seibi/kaihatuproject/29653/029490.html

フェイスブック「尼崎運河に行こう」
https://www.facebook.com/ama21canal

ひと咲き
まち咲き
あまがさき

尼崎市 都市整備局 土木部 公園計画・21世紀の森担当
〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1号　TEL 06-6489-6530　FAX 06-6481-6020
E-mail　ama-kouen21mori@city.amagasaki.hyogo.jp

2015.03_1500



Let's go to the AMAGASAKI CANAL

尼崎運河に行こう

尼崎市

CONTENTS

1　尼崎運河とは
2　尼崎運河の歴史
3　尼崎運河の物流機能
4　尼崎運河の防災機能
5　尼崎運河のみどころ・スポット
6　尼崎運河の環境
7　尼崎運河の生き物・植物
8　水質浄化と魅力あるまちづくり
9　尼崎ネイチャークラブ
10　尼崎キャナルガイド
11　キャナルウォークコース

尼崎運河とは

尼崎運河は尼崎市の南部、臨海地域に位置します。「尼崎運河域」と呼ばれるその範囲は、概ね国道43号から南側の中島川と武庫川に挟まれた、尼崎港を中心とする阪神工業地帯の核としても知られています。

北堀・中堀・東堀・西堀・南堀の5つの運河の長さは6.9km、幅は30～40m、水深は2～6mで、3つの河川(蓬川、庄下川、旧左門殿川)を合わせると運河域の全延長は12.4kmになります。

尼崎運河 no 歴史

ベルベット石鹸
(現、日本油脂株式会社)
ベルベット石鹸発行絵はがき
(大正15年～昭和10年頃)
尼崎市立地域研究史料館所蔵

兵庫県南東部に位置する尼崎市。南は大阪湾に面し東は猪名川、西は武庫川に囲まれた市域の大部分は、大阪湾の沿岸流や武庫川・猪名川の両水系が運ぶ土砂が堆積してできた平野です。古代の海岸線の後退による平野形成から、中世には港町として発展していきます。神崎川は都と瀬戸内・西国を結ぶ交通路となり、平安時代後期には神崎・今福・杭瀬・長洲・大物等、川船と渡海船を乗り換える河口の港が栄えました。

近世に入ると、政治・経済・軍事等あらゆる面で大坂が江戸幕府の西国支配の最重要拠点になりました。その西に位置する尼崎は軍事上大坂の西を守る要の地として重視され、幕府は四層の天守を持つ本格的な近世城郭を築城させました。城の西には寺町が、その南には侍屋敷等が建設され、城下町の姿が整っていきました。漁業の他に米や木材、酒樽用の菰、菜種等の商品作物も盛んに生産され、流通先進地となる一方、農業を支える治水や水利も整備されます。それらの水利施設が尼崎運河の原型になったとされています。

昭和初期に築港され、尼崎港の輪郭が形成された後、臨海工業用地の埋め立て・造成事業が始まります。運河の整備は都市計画事業として位置づけられ、室戸台風による災害復興事業として実行されたことも工業地帯化を促進しました。

総面積44万5千坪の港となった埋め立て地には、電力・石油・鉄鋼を中核とする重化学工業の大工場群が進出し、新たに扇町・末広町・鶴町と命名されました。埋め立ては今も続いており、一部は兵庫県によるフェニックス事業用地(東海岸町沖地区)として平成16年から利用が開始されています。

尼崎運河 no 物流機能

輸送路としての役割

国内においては当初の役割を終え、観光地化されている運河が多い中、尼崎運河は現在でも船舶が通航する'生きた運河'です。昭和44年に尼崎港・西宮港・芦屋港の3港が統合し、「重要港湾」として海上輸送網の拠点に指定され、縦横に発達している運河を利用する工場を中心に工業港として発展してきました。

貨物船とクレーン

尼崎港に入港する貨物船は、主に鋼材、完成自動車、セメント、砂利・砂、石油製品、化学薬品、金属くず、再利用資材、廃土砂等を運搬しており、運河沿いに歩けば、貨物船から工場へ、荷物を積み降ろすために岸壁に設置されたクレーンを使って搬出入中の船が見学できることもあります。

東高洲橋

跳ね橋

運河と道路橋が交わるところでは、橋を跳ね上げて船の通航を可能にする「跳ね橋」が設置されています。尼崎運河には2つの跳ね橋があり、そのうちの「東高洲橋」は、長さ47m、幅9.5m、可動部は約16mで、1日5回の跳開時間が決められています。(通航する船がある場合のみ跳開します)。もう一つの「丸島橋」は現在固定橋に変わり、跳ね橋は貴重な建造物として遺すために西堀運河にモニュメントとして保存されています。

丸島橋のモニュメント

尼崎運河 no 防災機能

尼崎市内の
ゼロメートル地帯

産業の発展と地盤沈下、ゼロメートル地帯

工場の地下水汲み上げにより、地下の地盤が脱水収縮して発生する「地盤沈下」は、臨海地域の工業地帯化が進みつつあった大正期にすでに始まっていた現象でした。市域南部には「ゼロメートル地帯」(東京湾平均海面T.P.+0.8m以下)が広がり、室戸台風(昭和9年)やジェーン台風(昭和25年)など幾度も水害に苦しめられました。

地盤沈下はその後、工業用水整備と地下水汲み上げ規制の効果が表れる昭和40年代にようやく収束し、その時点までに累積で最大2～3mの沈下があり、16km²以上、市域の約3分の1が「ゼロメートル地帯」となりました。

防潮堤の建設と水害対策

度重なる台風や高潮による被害の結果、本格的な対策が必要となり、防潮堤・閘門の建設が決定しました。資金難に悩みながらも建設が進められた防潮堤は、計画の3年をオーバーし、5年目となる昭和30年度中にようやく全てが完成しました。工事費は30億1,351万円にまで膨れ上がりましたが、高潮や台風による被害は大きく軽減されました。

水門とポンプ場の役割

まちを水害から守る施設

まちを水害から守るため、閘門や防潮堤以外にも様々な施設が設置されています。水門は防潮堤内の河川や運河の水位を一定に保つためのゲートで、高潮時には河川に海水が逆流しないようにゲートを閉めます。

運河には「遊水池機能」が備わっており、台風等で大雨が予測される場合、前もってポンプや干潮を利用して運河内の水位を下げておき、上流の河川から流れてくる水を一定量運河内にためることができます。これによって、ポンプの排水に余裕を持たせ、より安全な治水対策を取ることができるのです。

① 北堀水門

② 丸島水門

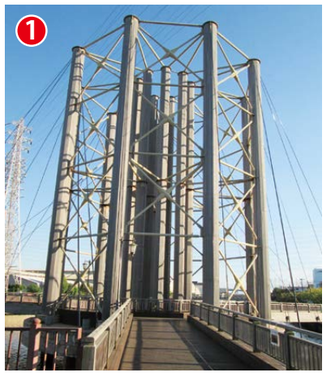
③ 東浜ポンプ場内

④ 松島ポンプ場内

◆運河と海面の高さの関係

尼崎運河のみどころスポット！

であい橋



北堀運河と中堀運河を結ぶ橋。運河と人が出合うことから名付けられました。橋の中央にそびえ立つモニュメントはかつての関西熱化学株式会社のガスタンクをモチーフにしています。現在は尼崎運河のシンボルとして知られ、縁結びの赤い糸が結ばれていることも。

尼ロック

昭和29年に建築された尼崎閘門（愛称：尼ロック）。平成6年に第2閘門、平成14年に第1閘門がそれぞれ造りかえられました。

閘門とは水位の異なる水面で前後の2つの水門を交互に開閉することにより、潮位の高い海水が運河内に流れることを防ぎながら船が航行できるようにした水門（船のエレベーター）のことです。

尼崎閘門は、レオナルド・ダ・ヴィンチが考案したと言われるパナマ運河方式（両開き式）が使われており、閘門の大きさは日本一です。長さ90m、幅17m、前扉の高さT.P.+5.7m、前扉の重さ260ｔ、通航可能な船の大きさ500総ｔまで。

※T.P.・・・日本の標高の基準面
（東京湾平均海面（TOKYO Peil））を示す。

パドルボード

パドルボードとは、サーフボードとカヤックを合わせた様なもので、正式名称は「Stand up Paddle」。略してＳＵＰ。

基本的にはサーフボードよりひと回り大きいボード（約4m）の上に立ち、背丈より高いパドルを使用して水面を移動するマリンスポーツです。尼崎運河では、毎年4月から10月の毎月2回、中学生以上対象の「初心者ＳＵＰ体験会」を開催しています。

工場夜景

国内生産トップシェアを誇り、阪神工業地帯を担う国内有数の生産拠点として盛況だった工場群が、現在では工場萌えのスポットとして人気。工場夜景の写真撮影ツアーやフォトコンテスト等も行われています。

尼崎の森中央緑地・尼崎スポーツの森

「尼崎21世紀の森構想」は国道43号以南の1,000haを対象としていますが、「森と水と人が共生する環境創造のまち」を最も演出できるエリアとして、尼崎の森中央緑地で森づくりが始まりました。尼崎の湾岸に森を創る壮大な計画は、多くの人の協力によって実を結びつつあります。森づくりにはいつでもどなたでも参加できます。

イベント

尼崎運河を普段は見ることのできない裏側からものぞけるクルージングは、毎年春と秋に開催しています（有料）。あまラブな市民が船上で工場群やまちの歴史、魅力をガイドしてくれます。うんぱく（尼崎運河博覧会）やエコキッズメッセなど、多彩なイベントで尼崎運河の魅力にふれてみてください。

元浜緑地

東側にはロングスライダーをはじめ大型木製遊具や芝生広場、西側には夏場にちびっこたちの水遊び場として人気の「わんぱく池」などがあり、アジサイやスイレン、冬に咲くヒマラヤザクラなどの花々とともに多くの方に親しまれています。

尼っこリンリンロード

阪神尼崎駅を出発し、寺町→出屋敷駅→工場群→であい橋→中堀運河→南堀運河→尼ロック→尼崎スポーツの森・尼崎の森中央緑地までの約6kmを自転車で巡る、尼崎南部のみどころ満載のコースです。

尼崎運河 no 環境

地理的特徴

尼崎の臨海地域は大正時代には干潟が広がり、潮干狩りを楽しむ人々の風景がありました。その後の埋め立てと港湾整備などによって、鉄鋼・電力・石油をはじめとする臨海工業地帯が形成、阪神間の大工業都市として栄えるという変化を遂げ、日本の経済成長に貢献する一方で、地盤沈下、水質汚濁、大気汚染等の深刻な公害問題が発生しました。

大気汚染

主たる大気汚染要因は、工場から排出される降下煤塵、石炭を燃焼させることにより発生するいわゆる「黒いスモッグ」でした。高度成長期に入ると、石油から重油へと燃料が転換することにより二酸化硫黄（亜硫酸ガス）の「白いスモッグ」が登場し、四日市、横浜、川崎、大阪といった工場の密集する都市において、ぜん息患者が多発する等の被害を引き起こします。尼崎も被害の集中した地域の一つでした。

その後企業や行政の努力により、昭和50年代後半以降、製造業や重化学工業に起因する公害は減少していき、尼崎の大気環境は相当改善され、青い空が再び見られるようになりました。

庄下川河口干潟で
潮干狩りを楽しむ人々

小西乙次氏撮影（大正12年頃）

かつての尼崎の海岸部ではアサリやハマグリが採れ、「マテ貝とり」や「鰈踏み」が市民の楽しみの一つでした。

尼崎運河 no 生き物・植物

尼崎運河をよく観察していると、魚類・鳥類や多様な植物に出会うことができます。秋には拾ったドングリでおもちゃ作りも。

クロダイ（チヌ）

ホシハジロ

ドングリ

カワウ

ソメイヨシノと
ユキヤナギ

ヒペリカム

水質浄化と魅力あるまちづくり

工場排水等の流入による河川水質汚濁もまた、大正期以来の深刻な問題でした。これまで様々な水質に関する規制が行われてきましたが、現在でも運河の水は濁っており、さらなる水質改善が必要な状態です。

北堀運河のであい橋付近に設置されている水質浄化施設は、「生態系による自浄作用」を使用した水質浄化システムです。運河の水はこの施設を通過することで浄化され、再び運河へ戻る仕組みとなっています。

水質浄化以外にも、船の乗降場（カヌーやパドルボードなどの人力船用）としての機能を備えています。

隣接して建てられた北堀キャナルベースは、水質浄化活動や環境学習、イベントやまちづくりのための会議などに利用できます。

尼崎運河は今、市民団体・企業・徳島大学・兵庫県・尼崎市が協働し、魅力あふれる都市環境づくりのため、「尼崎21世紀の森構想」、「リフレッシュポートあまがさき」などのプロジェクトによる緑化や遊歩道の整備、水質浄化などの事業を進めています。過去の公害のイメージや交通アクセス面の課題を改善しながら取り組みを重ね、臨海地域の特色や歴史的資源、集客施設を活用し、より多くの方に運河にきていただきたいと考えています。

水質浄化施設と北堀キャナルベース

船の乗降場

環境学習の様子

尼崎ネイチャークラブ

尼崎市立成良中学校ではじまった、環境や自然への関心を高め、自分達の生きる生活環境を改善しようとする力を育てることを目的とした「環境にやさしいものづくり」。

野鳥の巣箱製作や観察活動は、自然環境や野生生物保護の心を育みながら、地域美化や緑化活動、尼崎の海や運河の水質浄化へと広がってきました。水質浄化施設の貝や藻で堆肥を作り、ジャガイモを栽培したり、ヒマワリやナタネを植えて油を調理に使用した後、精製してバイオディーゼル燃料としても利用しています。

尼崎キャナルガイド

尼崎運河の役割や今後の可能性、魅力を発信する尼崎キャナルガイドの会。

尼崎運河を広くPRするため、運河クルージングやキャナルウォーク、環境学習のサポートなどのボランティアガイドとして活動しています。ぜひ尼崎運河へお越しください!

中堀運河散策

工場見学